

# 追跡 どうする 学力向上対策

**村全体で 子ども育成を！**  
**教育委員会**では、大変憂慮する事態と危機感を持ち、全村あげて教育環境を再構築するため、学力向上対策委員会を中心に事業を実施してきました。

**学校**では、教師の資質や指導力を向上させるため研究会や研修会を実施します。

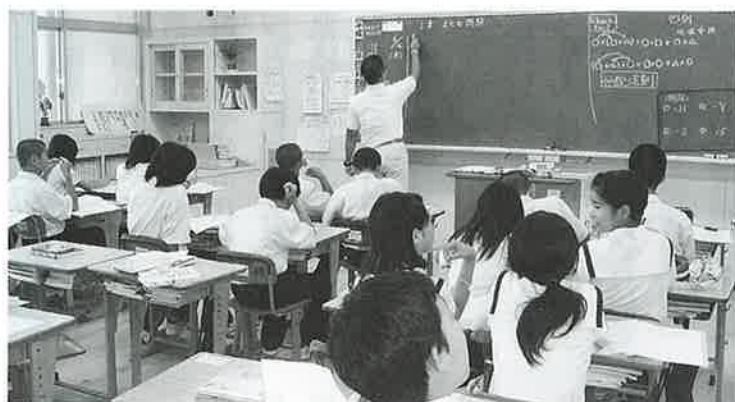
また、先進地研修をして教師の意識改革や指導力の向上を図り学習意欲を高めるため、漢字検定、数学検定、英語検定の推奨や家庭学習ノートの配布などの助成をしています。

**地域**では、区長を中心に基本的な生活習慣を確立するためあいさつ運動や地域塾を開催。

夕方6：00運動で大人が帰宅を促す声掛けをします。



**家庭**では、基本的な生活習慣を身につけさせるため「早寝・早起き・朝ご飯」を推進していきます。



## 全国学力学習状況調査とは

文部科学省が平成19年度から実施するもので、小学6年生と中学3年生を対象としている学力テストである。通称「全国学力テスト」。

全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的として調査が行われています。

### 実施教科

教科に関する調査：国語・算数（数学）  
 生活習慣や学習環境等に関する調査

## 危機的状況 改善のため！

子どもたちの学力に何が欠けていて、どういう対策が必要なのかなど、危機的状況を改善するために学校・家庭・地域が一体となって子どもたちの「生きる力」を育てるための学力向上対策を積極的に推進しています。

記事執筆委員 長浜

# 子ども達に「生きる力」を！



学力テストが行われるようになり、児童・生徒の学力の格差や教育力の低下などが懸念されています。議会でも一般質問等で学力向上の問題で議論が行われました。

村長も施政方針の中で子どもたちの学力の課題を見極め、学力の充実のための取り組みを推進すると所信表明しています。

これまでの村内の子ども達の学力向上の問題点や取り組み状況を追跡しました。

## 議会でも 取り上げられる！

議員から全国学力テストについての質問がありました。

**質** 目的は何か。

**答** 村内の子どもたちの現状を把握したい。

**質** 全国と何を比較できるのか。

**答** 全国の数字も点検しながら、いい方向に指導改善していく。

**質** 子ども達を序列化するのようなものには参加しないほうがいい。

**答** 参加していきたい。

**質** 結果を公表して説明責任を果たすべきだ。

**答** 教育委員会としては公表は控えるということにしています。

その他にも「教育委員会と学校だけで結果を保有するのではなく家庭・地域にも公表して共有することが大事」や



学力テストそのものを疑問視する意見がありました。

また、3年連続してテストの結果は沖縄県が最下位、その中で平成21年度恩納村は県の平均を下回る状況です。



### 陳情

3月の定例会までに7件の陳情、要請が提出されました。その中から3件は資料配布になり、4件は各委員会に付託され審査が行われました。また継続審査となっていた1件も審査が終わりまりました。結果の出た4件の陳情の紹介をいたします。

#### 国の出先期間維持を

政府が進めてきた地方に犠牲を強いる定員削減や地方分権改革は、一旦とめる必要があるとして、国家公務員労働組合沖縄県協議会から提出された陳情を審査の結果、次の項目を意見書として衆・参議長や政府機関に提出を行いました。

細菌性髄膜炎によって年間1000名の乳幼児が発症し、5%が死亡、20%に後遺症出ています。この陳情は、新日本婦人の会沖縄県本部から出され、細菌性髄膜炎のワクチンを任意接種ではなく公費による定期接種化の実現を求めている要請です。

#### ワクチンは公費で

- ①沖縄など地方に犠牲を強いる地方分権改革は行わないこと。
- ②地方の行政サービスの低下を招く国の地方出先機関の統廃合を行わないこと。
- ③公務員を一律に削減する定員削減計画などを行わないこと。
- ④沖縄の地域振興や県内企業の発展と、住民に対する行政サービスの確保に必要な権限と財源を確保すること。

このワクチン接種は重要であるとして趣旨についての採択となりました。平成22年2月から接種は可能になっていますが、ワクチンの供給量不足の問題や、国の定期接種化に向けた動きもあることから、その対応を見守る必要があります。また自治体としての公費助成は限られた財源の中で現在は厳しいこともあり、この陳情は趣旨採択での議決となりました。

#### 最低基準の改善を

自治労沖縄県本部から提出されたこの陳情は自治体やサービス提供者側の財政力や政治状況に関わらず、全国どこでも最低基準の保育環境の保障ができるよう施設の設置や運営に対して財源の確保、最低基準の改善に向けての配慮を求めています。

#### 教育現業職員の

#### 雇用維持を

子ども達の健やかな成長、発達を保障し安全、安心で快適な教育環境を作ることが重要であるとして沖縄県自治体一般労働組合から提出された陳情は審査の結果7つの要求項目から村の現状等を踏まえて3項目を一部採択しました。さらに採択項目3つの中から要求項目④については意見書として衆・参議長や政府機関に提出を行いました。

- ①保育所・児童入所施設の設置及び運営に対し、必要な財源を確保すること。
- ②保育所・児童入所施設の最低基準については、改善に向けて十分配慮すること。
- ③非正規職員に対し「期間満了」などの合理的理由のない雇止めは行わないこと。
- ④地方交付税交付金を増やし必要な学校予算を確保すること。各自治体においても必要な学校教育予算を確保すること。
- ⑤学校現場の声を無視した現業職員、市町村負担学校事務職等の定数減、廃止などを行わないこと。

### 議案

## 指定管理を決定

#### 農水産物販売センター

平成17年から5年間の指定管理契約が今年で終了します。

この間地域の雇用や活性化も進み、運営は順調に伸びています。

今年から5年間、現在運営しているonnagaが引き続き指定管理を受けることになりました。

審査の中で地元優先を基本に運営してほしいとの意見もありました。

#### 地域活動支援センター作業所



村内の身体、知的、発達障害者の社会復帰や自立、社会参加の促進を図る施設（作業所）が福祉センター隣りに完成しました。施設の管理運営は、村社会福祉協議会が5年間の指定管理を受けて運営を行うこととなります。

### 発

## 日米地位協定の

## 抜本的改定を

### 抗議

#### 米軍人車両によるひき逃げ事件

平成22年3月16日、名護市辺野古の国道で酒を飲んで軍用車両を運転していた兵士が、親子3人乗りの軽乗用車に追突し、けがを負わせ逃げる事件が発生しました。飲酒によって正常な運転操作や状況判断ができない状態であり、また被害者の救護処置も行われず、現場から逃走したことは許されることではありません。

#### キャンプ・ハンセン山火事

平成22年3月19日、演習場レンジ7で発生した実弾演習による山火事は4時間にも及びました。住民の命の源である水源涵養林を消失し、生活用水や農業用水の確保に重大な危機を与えています。このような自然環境破壊に対し、村民の生命、財産、自然環境を守るため議会では消火体制の迅速化、焼失した緑の再生、赤土流失防止に対する配慮、不発弾の早期撤去を求め、米軍関係機関に対し抗議決議を行い、日本政府機関には意見書の提出を行いました。

また基地対策委員会では沖縄防衛局において山火事と役場駐車付近の外灯への接触事故に対する抗議活動を行いました。



# 県町村議長会表彰

## 議会だより

### 優秀賞

県下町村議会広報の一層の充実と編集技術の向上及び普及発展に寄与する目的で、第13回県町村議会広報コンクールが実施され、「議会だより うんな」が優秀賞に輝きました。

今回のコンクールには、最優秀賞（1点）、優秀賞（2点）、奨励賞（2点）、



山城議長と6名の広報委員

写真賞（1点）が入賞しました。

今回審査のため提出した議会だよりは、昨年5月末に発行した百号の記念号で、創刊当時の山城一彦元広報委員長並びに古波蔵弘元事務局長からのメッセージや、21年度事業の概要、審査トピックス、付録として創刊号の復刻版を付けたもの。

審査員からは、「一般質問だけではなく、委員会の審議等も盛り込まれ、文字の大きさと行間のバランスも取れていて読み易い」という評価をいただきました。

## 議員3名

### 自治功労

町村の議会議員として11年以上在職者を県町村議会議長会長から表彰する自治功労者表彰に、本村議会から3名の議員が表彰されました。



本村議会から表彰されたのは、金城弘議員（写真中央）、山内鈴子議員（右）、吉山盛次郎議員（左）で、平成21年12月現在で金城議員が11年5ヶ月、山内、吉山議員が共に11年4ヶ月の在職となっております。

なお、今回の自治功労者表彰では、村の3名を含め県全体で59名が表彰されました。

## 編集後記

今回の受賞は恩納村議会がいかにか活発であるかが証明されたもので、全議員の活躍によつて受賞したものです。これを機に、お互い更なる研鑽に励みたいところです。

話は変わりますが、早いもので弊誌も今のメンバーで作成するのは、次回発行のあと一回となります。

これまで発刊の度に、どうしたら村民の皆さんに、議会の様子をわかりやすく伝えることができるか、そして読んでもらえるようにするかを考えて作成してきました。皆さん、いかがでしたでしょうか？

村民の皆さんが議会に関心を持っていただけるように、残された時間をさらに頑張っていきたいと思えます。

104号編集長 宮崎 豊

